

# PI を推進するための定量化手法

## 背景

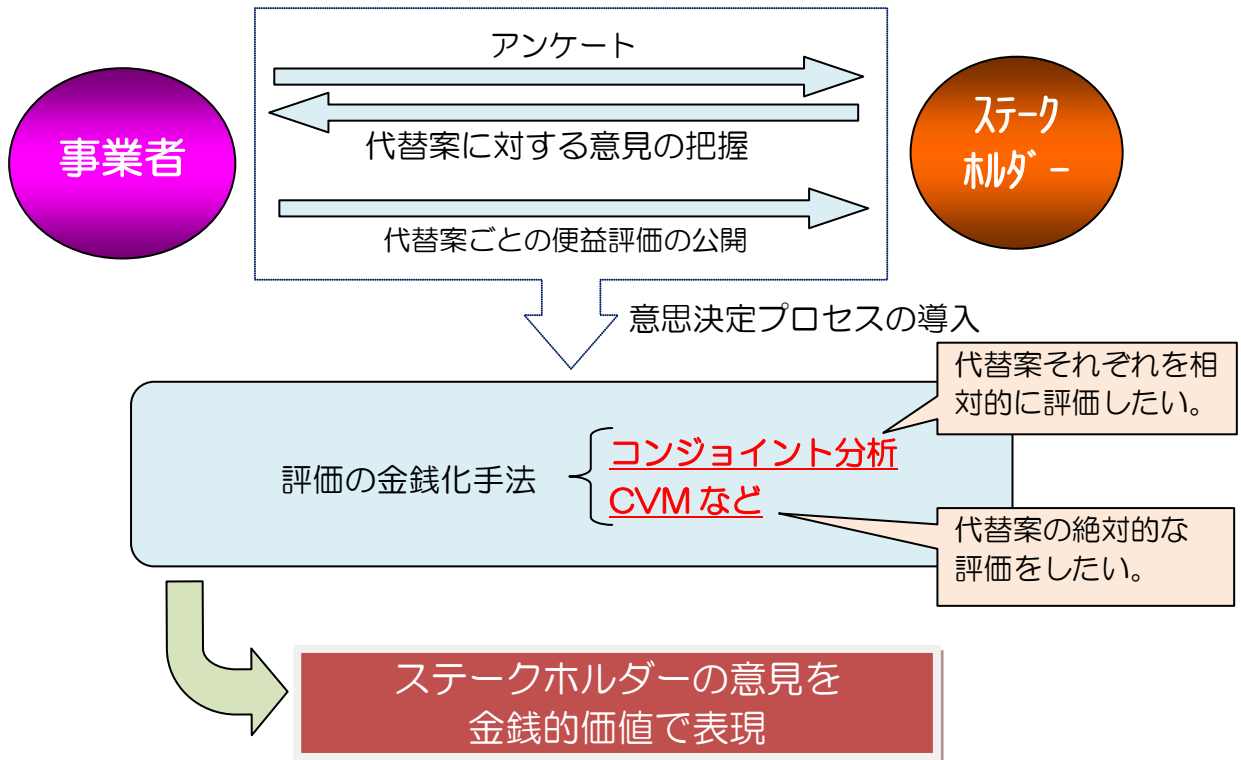
- 近年、公共事業の計画策定プロセスの中に、PI(パブリック・インボルブメント)が積極的に導入されています。
- PIを実施するには、事業の構想段階においてステークホルダーの意見を反映した複数の代替案を提示する必要があります。
- しかし、アンケートや聞きとり調査結果の単純集計だけでは、代替案の選定や事業便益の評価が困難で、これらを定量的に評価する手法が求められています。

## 目的

定量的（金銭的価値）に評価できる手法を導入し、予算枠の検討や代替案の比較検討など、ステークホルダーの意見を具体的な事業計画に盛り込むことを支援します。

## 支援内容

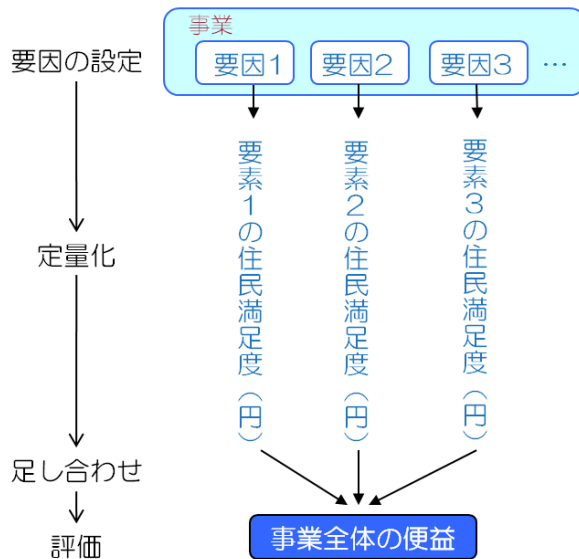
- 意見の抽出プロセスにおいて、金銭的な評価手法（コンジョイント分析、CVM）を採用し、住民視点での代替案の便益評価を実施します。
- 事業の代替案に対する費用便益（B/C）の算出、ステークホルダーに向けた説明資料の作成を行います。



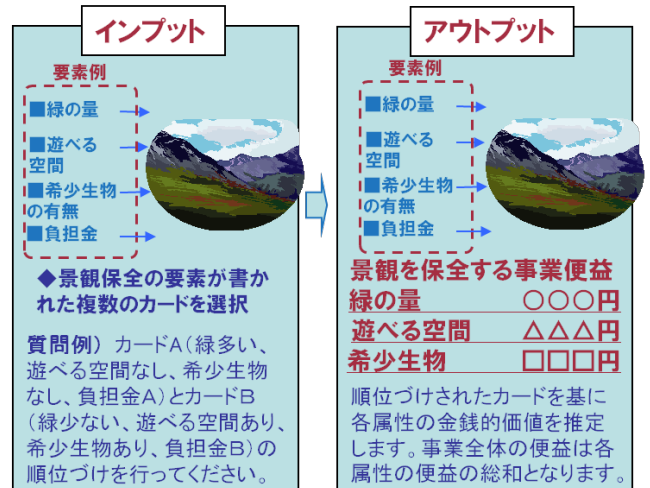
**代表的な金銭的評価手法の事例**

**コンジョイント分析 (Conjoint Analysis)**

- 代替案を要因別で評価して、金銭評価された要因の組み合わせにより代替案を評価します。
- 代替案ごとの定量的な比較が可能な手法です（例：代替案A【緑の量多い、遊べる空間なし】と代替案B【緑の量少ない、遊べる空間あり】では、どちらの便益が高いか評価できます）。

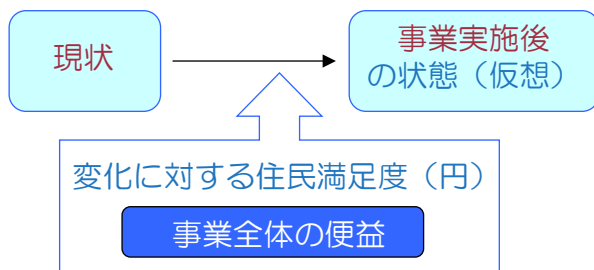


**◆事例(景観保全事業の場合)**



**CVM (Contingent Valuation Method)**

- 代替案に対する仮想的状況を設定して、それを実現するための支払い意思額を抽出します。
- 現在の状態と代替案の比較評価が可能です（例 代替案Aを実施することによって現状の景観が保全される、あるいは失われる価値が評価できます）。



**◆事例(景観保全事業の場合)**

